

新基地建設反対名護共同センターニュース

土砂搬出1年 安和の海と陸で230人が抗議



名護市安和の琉球セメント橋から辺野古の埋め立て用土砂が搬出されてから1年目の3日、安和の海と陸で抗議集会が開かれました。主催はヘリ基地反対協、後援はオール沖縄会議。海上にはカヌー166艇と抗議船などから80人、護岸には県民150人が参加しました。ヘリ基地反対協安次富共同代表が「土砂は総量の1・1%しか埋め立ててない。不屈のたたかいを続けよう」、オール沖縄・稲嶺進共同代表が「連帯の輪を大きくすることでできると勝利する」、県政与党の比嘉瑞己県議（共）が「軟弱地盤問題などで新基地建設は必ず行き詰る。勝利するのは私たちだ」とあいさつしました。各島ぐるみ代表とカヌーチーム代表が決意を表明。最後に具志堅徹元県議が頑張ろう三唱の音頭をとりました。

埋め立てたのは土砂総量の1・1%
 「あきらめなければ必ず勝利する」

「山を壊した土で海を壊す」

本部の山がどんどん変形しています。琉球セメントの鉤山から時価3倍の値で赤土が買い上げられ安和の海と陸で違法に海上輸送され、辺野古の海に埋め立てられています。山を壊した土で海を壊す環境破壊の連鎖が続く。



琉球セメント 旧橋を違法使用

琉球セメントは昨年、旧橋（写真手前）が老朽化したとして隣にベルトコンベアー（写真右）付きの新橋を完成届のないまま防衛局の辺野古への土砂搬出用に提供していました。その後、新橋の完成届をした後、辺野古への土砂搬出に新橋を優先使用させ、他の資材の搬入搬出の際に老朽化した旧橋も違法に使用していることが問題となっています。3日の海上行動の際、抗議船から旧橋に近づくと写真のように腐食し、穴が開いた橋げたがありました。



沖縄-全国の連帯で辺野古埋め立ては止められる！ 辺野古土砂全協 沖縄で連続学習会を開催

「国家の犯罪」「完成の見通しない」
 湯浅氏は海砂問題を中心に報告し、「辺野古埋め立ては日本政府が定めた生物多様性国家戦略にも反し、未来世代に対する国家の犯罪だ」と告発しました。
 北上田氏は、「軟弱地盤や活断層、巨額の工事費、今後20年の工期などで辺野古新基地の完成の見通しは全くない」と報告、諦めることなく現場での闘いを続けることを呼びかけました。
 末田氏は、「軟弱地盤の改良工事に有害な鉄鋼スラグが使われる可能性が高い。それを防ぐため沖縄県の土砂条例改正が必要」と訴えました。
 参加した若い女性は「とても勉強になりました」と話していました。今後の闘いに展望を持つことができました。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（辺野古土砂全協）は23・4日、「沖縄-全国の連帯で辺野古埋め立ては止められる！」と題し沖縄県の中南部、北部で連続学習会を開催しました。
 4日は名護市内でやんばる島ぐるみ協議会との共催で開催、100人を超す市民が参加しました。講師はピースデポ共同代表の湯浅一郎さん、平和市民連絡会の北上田毅さん、元大阪府環境行政担当職員の末田一秀さんが務めました。



4日に名護市内で行われた学習会の様子。多くの市民とともに、オール沖縄・稲嶺進共同代表や地質学者の立石雅昭新潟大名誉教授も参加しました。